

教材教具および題材	学部	授業名 (主たる教科領域)	執筆者
三びきのやぎのがらがらどん ～げきあそび～	小	グループ学習 高学年アザラシ (国語)	栗本千津子 北山晴啓 土橋知幸 竹下久実

<ねらい>

- ・活動に見通しを持って取り組み、模倣する力を豊かにし、イメージする力の基礎を育てる。
- ・絵本などの読み聞かせを通して、場面の展開に期待感を持つ。
- ・げきあそびを通して、自分の思いや要求を言葉で表現する力を豊かにする。

<内容(作成方法・使用方法・工夫点など)>

- ・絵本『三びきのやぎのがらがらどん』(福音館書店)の読み聞かせをする。
その中で、小さい、中くらい、大きいやぎがそれぞれ登場してトロルとやりとりするシーンのせりふを教師と一緒に言ったり、「せーの」で、みんなで言ったりする。
(例えば、小さいやぎであれば、「かたことかたこと」「食べないでください」等)
- ・絵本の読み聞かせの後、小さい、中くらい、大きいやぎの登場シーンごとに、ストーリーに沿って、橋を渡る場面の劇あそびをする。
- ・教師の見本を見た後、段ボールで作った吊り橋を渡ったり、教師が扮するトロルとやりとりをしたりする。



大・中・小ヤギのプレート

段ボールの吊り橋



トロル



橋桁の裏側



児童机に緑の布をかけて、山に見立てた。

(劇用道具の作成方法)

- ・段ボールの橋桁の裏側にスポンジを付けて、橋を渡るときに踏みつけた感触が出るようにした。(写真)
- ・大・中・小ヤギのプレートは、パウチして首からかけられるようにした。
- ・トロルは、砂袋に頭、腕が通るように穴を開け、目は発泡スチロール、鼻は色画用紙を丸め、ティッシュをつめて棒状にしたものをつけて作った。主に教師がトロルの役をした。
- ・橋を渡った先にある「山」は、児童用机に黄緑の布をかけて設置した。
- ・ついたてを立てて、トロルが隠れて橋を渡っている途中で出てくるようにした。

<良かった点・改善点(児童生徒の反応を含め)>

- ・橋を途中まで渡り、トロルが出てきてやりとりし、橋を渡りきった先の山で草を食べるという流れをわかりやすく伝えられた。
- ・絵本だけで、怖がる児童もいたが、教師が扮するトロルをみて、怖いけどやってみたいと楽しんで橋を渡ることができた。
- ・幼児向けのかわいらしい挿絵の絵本でなく、マーシャ・ブラウン絵、せたていじ訳のシリアスな絵本を採用して取り組んだことで「怖いけど見たい、怖いけどしてみたい」という児童の興味関心を引き出すことができた。(但し訳について、残酷な表現は一部、変更して読み聞かせをした。)

<その他(材料、費用、購入先等)>

絵本『三びきのやぎのがらがらどん』(福音館書店)



パウチシート、砂袋、発泡スチロール、色画用紙、油性ペン、段ボール、スポンジ、紐

